



238名卒業生（115回生） 巣立つ



3月3日、本校体育館で第64回卒業式が行われました。在校生・職員・卒業生保護者・来賓各位の見守る中、238名の3年生が本校を巣立ちました。卒業証書授与の後、学校長のはなむけのことばがあり、同窓会長、PTA会長から励ましのことばをいただきました。続いて、卒業生から学校へ記念品が贈られました。最後に全員で校歌を斉唱し、簡素で厳粛な本校の卒業式が終了しました。

その後、同じ会場で本校学友会の伝統行事である談論会が1時間程度行われました。卒業生も在校生も、今みんなに伝えたいことや自分の思いなどを自由にステージに出て伝えていました。

午後はやわらかな春の日差しとなり、コモンスペースは例年のように各クラブの生徒が集まり記念撮影や花束贈呈を行うなど華やかさの中にも名残惜しそうな風景が見られました。



大学入試情報（3年進路係より）

本年度入試は1月14日15日が大学入試センター試験、2月25日26日が国公立大学前期試験、3月12日が後期試験という日程でした。

ほぼ全員が受験したセンター試験については平均点で考えるとまずまずの結果でした。しかし、前期試験では特に難関校で苦戦し、センター試験高得点者もなかなか思うような結果にはなりません。現在は後期試験の結果を期待しているところです。

私立入試はどちらかと言うとセンター試験に似たマークセンス方式が多いので、私立大学については合格者延数はかなり多くなっています。

今年は年間を通じて模擬試験なども昨年より多く実施しました。クラブ活動を頑張っていた生徒達も夏休み以降はとても熱心に受験に取り組み好結果につながった生徒もいました。ただし、今の大学受験は厳しいのでより早い自覚が必要です。

これからの行事予定

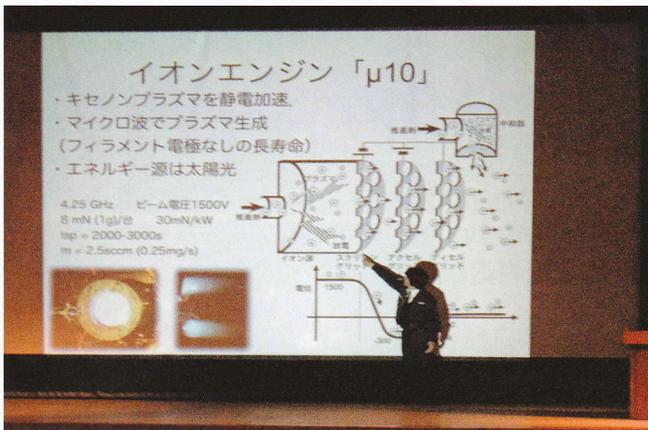
| | | |
|----|---------|---------------|
| 4月 | 4日 | 入学式 |
| | 10日・11日 | 1年学習オリエンテーション |
| | 14日 | サイエンスフォーラム |
| | 27日 | クラスマッチ |
| 5月 | 17日・18日 | 一斉考査 |
| | 19日 | 授業公開・PTA総会 |
| 6月 | 7日 | 芸術鑑賞 |
| | 12日～14日 | 第1回定期考査 |
| | 29日～2日 | 清陵祭 |
| 7月 | 7日 | サイエンスフォーラム |

課題探究発表会 (2月19日 諏訪市文化センターにて)



課題探究発表会が2月19日諏訪市文化センターにて行われました。2年S講座の生徒達が日々の研究の成果をポスター等にして発表し、一般の方々を含め多くの皆さんに見ていただきました。

サイエンスフォーラム (11月10日諏訪市文化センターにて)



JAXA宇宙科学研究所宇宙航行システム研究系准教授で、小惑星探査機はやぶさの帰還カプセル開発、回収に携わった山田哲哉先生を講師に招き講演を聞きました。山田さんは「小惑星探査機『はやぶさ』の帰還～その超技術、カプセルの秘密」と題し、はやぶさを打ち上げた理由やさまざまな技術、トラブルに見舞われた惑星探査の足跡、回収までのドキュメントなどを分かりやすく解説して下さいました。探査中に数多くのトラブルが発生しましたが、山田先生は「それを不運と思ってはいけない。技術的未熟さのツケだとしてしっかり認識し、教訓として次回に活かさねばならないと思った」と話されました。そうした試練を乗り越えてはやぶさの帰還カプセルを回収したときの喜びは格別だったそうです。過程を振り返りながら「私たちのチームワークには、応援してくれる人たちの存在、情熱や知識に裏付けされたトップのリーダーシップ、仲間に頼れる信頼と頼られる責任があった。はやぶさが残してくれた最大のもは『あきらめない勇氣』だった」と締めくくられました。受講した一、二年生や一般聴講者の皆さんは、最前線の現場にいた山田先生の話聞きながら、改めて日本の宇宙科学がもたらした快挙への思いをめぐらせました。

諏訪の風土を学ぶ連座講座 (12月～2月)



本校の三澤文庫と共催で「霧ヶ峰」「諏訪湖」「諏訪の地震と活断層」をテーマに連続講座を行いました。フィールドワークもあり、一般の方を含む参加者は熱心に講師の先生の話に聞き入っていました。

卒業生の言葉

今年度卒業生から清陵の思い出、大学生活の様子などを聞かせてもらいました。

大学に入学してはや半年以上が経ちました。僕の通っている大学では日本各地から生徒が入学してくるので、自分とは違う物事の見方や言葉に接することが多々あり、とても刺激的です。大学での授業も一、二年の間は教養課程として、例えば、比較思想、認知脳科学、というように幅広い学問を学べ、視野を拡大できます。

大学生活をしばらく送った後、大学生活と高校生活を比べてみて思ったことは、清陵はとても自由のある高校だったのだなということです。これは、僕が決して模範的な生徒とは言えないような生徒であったからかもしれませんが、清陵が生徒の自主性に任せる高校であることは間違いのないと思います。

大学はとても自由だと言われますが、僕自身は高校のときと比べ、格段に自由になったとまでは感じません。たしかに、高校とは違って好きな授業を取れたり、やろうと思えば苦手なことや教科から逃げることもできたりします。清陵でそのようなことはできません。しかし、清陵で勉強などの最低限のことがきっちりできているのであれば、部活や学友会、あるいは自分の趣味といった好きなことに打ち込む自由があります。今振り返ると、僕は高校時代結構好きなことをやらせてもらい、とても有意義な生活を送らせていただけたように思います。

その上、清陵で築いた友人は将来に渡っても貴重な友人になると思います。

みなさんも自由のある環境を活かして後悔のない、充実した高校生活を送ってください。



東京大学
文科一類
田村 康

大学生活を始めてまず思うのは、自由に使える時間の多さです。この時間をどう使うかは人それぞれです。

僕は、自分のこれからを考える材料集めの時間だと考えています。野望に向けての準備期間というやつです。その一環として、高校を卒業した段階ではあまりに人生経験が乏しいと思ったので、まずは自分の目で世界を見ようと考えました。

先日は長い夏休みを利用し、一ヶ月程イギリスへ旅行に行きました。バックパックひとつで見知らぬ土地を旅するのは高校の頃からの夢だったので。スコットランドの首都であるエディンバラからロンドンまでイギリスを縦断しました。行く場所はその日に決めるという気ままな旅です。多くの困難がありましたが、新たな見方を与えてくれる素晴らしい旅でした。

さて、今皆さんは高校生です。考えてみてください。大学選択あるいは文理選択は残り数十年の人生を決める上で極めて大きな出来事です。それを17年というポカーンとしてれば過ぎるような短い人生経験で決めなければならない訳です。大変ですね。ですから皆さんにはポカーンとしてではなく、自身のことをしっかり考えて生活してほしいと思います。

そう考えると、清陵は恵まれた環境ですよ。皆さんも実感しているでしょうが、良くも悪くも色んな生徒がいます。皆さんを全力で指導して下さる先生方もおられます。そのような環境で学べることを周囲の人に感謝しつつ、後悔のないよう日々過ごして下さい。



東京工業大学
第5類
伊藤 樹理

2年進路係より

2学年は春休みに2泊3日の学習合宿を計画しています。夏に続いて2回目の合宿で希望者を対象に実施し、夜遅くまで長時間にわたる学習時間を体験します。(写真は夏合宿の様子) 夏に実施した大学見学、秋の進路講演会、また、LHR、面談を通じてそれぞれが志望する大学・学部・学科も具体化してきました。今年のセンター試験の翌日には、実際の問題で国語、英語、数学のセンターチャレンジを実施し、各自が現状をしっかり把握して1年後のセンター試験と国公立大学や私立大学の入試に向けての学習計画を徐々に整えているところです。4月からは3年生になるので新入生のよい手本になれるように一人ひとりが頑張っています。



